

1 事業報告

令和7年度の事業については、当初の計画どおり滞りなく実施することができた。

給付事業については、現職会員の家族療養費の給付件数が大幅減となり、医療費も給付件数が大幅減となったが、給付単価の増により支給額は増加した。

また、退職会員の医療補給金の請求件数も大幅減となった。

経常収益については、会員一人当たりの掛金額の増により受取掛金が増収となった。

会員数は、現職会員の加入率は94.52%と、昨年度より2.42%増加したが、会員数は144名減となった。一方、退職医療事業の会員数は退職会員及び長寿会員が10名減となり、総会員数は前年度から154名減となった。

＜実施事業会計＞では、公益事業として、小・中・県立学校及び特別支援学校等で使用する教材等の購入を助成する「学校教材費等助成事業」を42校に行い、「特定寄附」は、茨城県立図書館にマイクロフィルムスキャナー及び木製書架2台を寄贈した。

＜その他会計（一般事業会計）＞では、福祉厚生事業について、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮して実施していた「ゴルフロングランコンペ」をスポット開催の「ゴルフ大会」に戻して実施した。また、新規事業として「鹿島アントラーズサッカー観戦」及び「キッザ

ニア東京利用補助」を実施した。

＜その他会計（退職医療事業会計）＞では、「人間ドック補助」について、本会の会員の個人受診枠と本会が健診機関と契約して実施する団体受診枠とを併せて 2,848 名で実施した。

福祉厚生事業は、一般事業と同様に、スポット開催の「ゴルフ大会」を実施した。また、現地集合での「日帰り体験」に加えて、バスによる「日帰り旅行」を実施した。

本会の事業費全体の一般正味財産増減の部における経常収益計は、全会計を合わせて、決算額で 1,518,845,150 円となり、前年度 1,151,342,541 円と比較して、367,502,609 円の増となった。

経常費用計は、全会計を合わせて 1,538,985,472 円となり、前年度 1,205,111,945 円と比較して、333,873,527 円の増となった。

当期一般正味財産増減額は、全会計を合わせて△20,140,322 円となり、前年度△53,778,370 円と比較して 33,638,048 円の増、一般正味財産期末残高は 1,328,647,171 円となった。

指定正味財産は基本財産の 10,000,000 円で、正味財産期末残高は、1,338,647,171 円となった。

＜実施事業会計＞

I 一般正味財産増減の部

1 経常増減の部

(1) 経常収益計 0 円

(2) 経常費用計 6,713,851 円

「学校教材費等助成事業費」では、42 校に対して 3,966,051 円の助成を行った。

「特定寄附」では、茨城県立図書館にマイクロフィルムスキャナー 及び木製書架 2 台を寄贈した。

2 経常外増減の部

(1) 経常外収益計 0 円

(2) 経常外費用計 0 円

他会計振替額 6,713,851 円

その他会計(一般事業会計)から公益事業費の額を振り替えた。

当期一般正味財産増減額は 0 円となり、正味財産期末残高は 0 円である。

＜その他会計（一般事業会計）＞

I 一般正味財産増減の部

1 経常増減の部

(1) 経常収益計 476,774,261 円

「受取会員掛金」(給料月額 5/1,000) は、会員一人当たりの

掛金額の増により 460,241,010 円となり、前年度と比較して 9,309,793 円の増となった。

「受取被扶養者掛金」（被扶養者 1 人につき 100 円）は、被扶養者数の減により、決算額は 15,949,000 円となり、前年度と比較して 327,000 円の減となった。

各金融機関に預け入れている預金等からの「特定資産受取利息」及び「利息配当」は、資産運用の結果、決算額は 584,165 円となり、前年度と比較して 112,411 円の増となった。

資産額に対する運用利回りは 0.10%であり、令和 7 年度末における一般事業会計の資産総額は 577,149,059 円で、資産運用の割合は、地方債や譲渡性預金等の有価証券及び定期預金が 80.31%、普通預金が 19.69%となった。

（２）経常費用計 397,814,334 円

「給付事業費」全体では、決算額は 387,014,866 円となり、前年度と比較して 2,130,068 円の増となった。

「家族療養費」は、給付件数の減により、決算額は 28,985,100 円となり、前年度と比較して 1,980,000 円の減となった。

「弔慰金」は、給付件数の増により、決算額は 12,700,000 円となり、前年度と比較して 4,900,000 円の増となった。

「医療費」は、給付単価の増により、決算額は 177,468,700 円となり、前年度と比較して 3,570,100 円の増となった。

「人間ドック補給金」は、給付件数の減により、決算額は

31,622,410 円となり、前年度と比較して 712,866 円の減となった。

「リフレッシュ助成費」は、給付件数の減により、決算額は 22,830,000 円となり、前年度と比較して 1,580,000 円の減となった。

「60 歳総合検診補給金」は、給付件数の減により、決算額は 13,767,586 円となり、前年度と比較して 1,346,666 円の減となった。

「福祉厚生事業費」は、観劇、スポーツ（東京ドーム野球観戦、鹿島アントラーズサッカー観戦、茨教互ゴルフ大会、茨城ロボッツ観戦補助）、東京ディズニーリゾート利用補助、キッザニア東京利用補助及び茨城空港利用リフレッシュ助成等の経費で、全体の計画人数 6,570 名に対し 7,991 名の申込みがあり、5,780 名が参加した。

決算額は 9,531,373 円となり、前年度と比較して 169,175 円の減となった。

経常費用計は、決算額 397,814,334 円となり、前年度と比較して 1,005,881 円の増となった。

当期経常増減額は、決算額で 78,959,927 円となり、前年度と比較して 8,071,723 円の増となった。

2 経常外増減の部

(1) 経常外収益計 0 円

(2) 経常外費用計 0 円

他会計振替額 △65,268,177 円

その他会計（一般事業会計）における人件費及びその他の管理費の額を法人会計へ、公益事業費の額を実施事業会計に振り替え

た。

当期一般正味財産増減額は、決算額 13,691,750 円となり、前年度と比較して 7,745,922 円の増となった。

一般正味財産期末残高は、決算額 547,066,152 円となり、前年度と比較して 13,691,750 円の増となった。

II 指定正味財産増減の部

指定正味財産期末残高は、基本財産の 10,000,000 円である。

III 正味財産期末残高

正味財産期末残高は、557,066,152 円となり、前年度と比較して 13,691,750 円の増となった。

令和 7 年度末の現職会員の会員数は 21,890 名で、加入率は 94.52% である。前年度末の会員数 22,034 名と比較して 144 名の減となった。

なお、臨時的任用職員、任期付職員及び会計年度任用職員を除く職員の加入率は 99.50%、臨時的任用職員、任期付職員及び会計年度任用職員の加入率は、42.57%となった。

＜その他会計（退職医療事業会計）＞

I 一般正味財産増減の部

1 経常増減の部

（１）経常収益計 1,042,070,889 円

「特定資産受取利息」は、特定資産の運用利回りが減となったため、決算額は 57,971,607 円となり、前年度と比較して 7,001,832 円の減となった。

「利息配当」は、運用利回りの増により、決算額は 7,221,219 円となり、前年度と比較して 6,210,355 円の増となった。

「受取会員掛金」（給料月額 5/1,000）は、決算額は 459,958,352 円となり、前年度と比較して 9,369,286 円の増となった。

「受取年齢別負担金」は、退職医療事業に加入するために退職時に納入するもので、加入者の増により決算額は 317,757,000 円となり、前年度と比較して 187,098,000 円の増となった。令和 7 年度の退職医療事業への加入者は 602 名で、本人会員の移行率（加入率）は 60.38%となった。

資産額に対する運用利回りは 0.72%であり、令和 7 年度末における退職医療事業会計の資産総額は 9,008,572,213 円で、資産運用の割合は定期預金が 31.12%、有価証券が 64.98%、普通預金が 3.9%となった。

「給付引当金取崩額」は、退会一時金の給付額の増に伴い、決算額は 199,162,711 円となり、前年度と比較して 163,489,160 円の

増となった。

(2) 経常費用計 1,027,709,187 円

「給付事業費」全体では、決算額は 1,021,309,720 円となり、前年度と比較して 331,748,853 円の増となった。

「退会一時金」は、給付件数の増により決算額は 660,340,420 円となり、前年度と比較して 333,387,253 円の増となった。

「弔慰金」は、給付件数の減により決算額は 650,000 円となり、前年度と比較して 1,100,000 円の減となった。

「無給付者記念品費」は、給付対象者の減により決算額は 13,320,000 円となり、前年度と比較して 1,060,000 円の減となった。

「福祉厚生事業費」は、日帰り体験、日帰り旅行、観劇、スポーツ（東京ドーム野球観戦、鹿島アントラーズサッカー観戦、大相撲観戦及び退教互ゴルフ大会）を実施した。

日帰り体験は、計画人数 72 名のところ 115 名の申込みがあり、71 名で実施し、日帰り旅行は、計画人数 80 名のところ 178 名の申込みがあり、79 名で実施した。

観劇 5 コースについては、計画人数 570 名を大幅に上回る 1,022 名の申込みがあったため、定員を増員し 669 名が参加した。

スポーツは、東京ドーム野球観戦については、計画人数 150 名のところ 195 名の申込みが、大相撲観戦については、九月場所及び一月場所を併せて計画人数 80 名のところ、約 10.4 倍の 834 名の申込みがあった。

決算額は 3,493,173 円となり、前年度と比較して 229,102 円の増となった。

経常費用計は、決算額で 1,027,709,187 円となり、前年度と比較 333,637,123 円の増となった。

当期経常増減額は、決算額で 14,361,702 円となり、前年度と比較して 25,101,254 円の増となった。

2 経常外増減の部

(1) 経常外収益計 0 円

(2) 経常外費用計 0 円

他会計振替額 △48,193,774 円

その他会計（退職医療事業会計）における人件費及びその他の管理費の額を法人会計に振り替えた。

当期一般正味財産増減額は、決算額△33,832,072 円となり、前年度と比較して 25,892,126 円の増となった。

一般正味財産期末残高は、決算額 781,581,019 円となり、前年度と比較して 33,832,072 円の減となった。

II 指定正味財産増減の部

指定正味財産期末残高は、0 円である。

III 正味財産期末残高

正味財産期末残高は、決算額 781,581,019 円となり、前年度と比較

して 33,832,072 円の減となった。

令和 7 年度末の退職医療事業会員数は、退職時から 75 歳まで（会員期間については、経過措置あり。長寿会員も同様。）の給付事業対象者である退職会員が 6,485 名、80 歳まで福祉厚生事業等に参加できる長寿会員が 2,760 名で、合計 9,245 名となった。前年度末の会員数 9,255 名と比較して、10 名の減となった。

退職医療事業会計の給付に必要な責任準備金（全現職会員の掛金 5/1,000 とその利息及び全退職会員の給付積立必要額）の積立率は 100%となっている。

＜法人会計＞

I 一般正味財産増減の部

1 経常増減の部

（１）経常収益計 0 円

（２）経常費用計 106,748,100 円

管理費は、職員の給料等の「人件費」及び事務経費の「その他管理費」等で、決算額 106,748,100 円となり、前年度と比較して 501,572 円の減となった。

当期経常増減額は、決算額△106,748,100 円で、前年度と比較して 188,200 円の増となった。

2 経常外増減の部

（１）経常外収益計 0 円

(2) 経常外費用計 0 円

他会計振替額 106,748,100 円

その他会計（一般事業会計）とその他会計（退職医療事業会計）から人件費とその他管理費の額を振り替えた。

当期一般正味財産増減額及び一般正味財産期末残高は、0 円となった。

II 指定正味財産増減の部

指定正味財産期末残高は、0 円である。

III 正味財産期末残高

正味財産期末残高は、0 円である。